

風景を 彩る鋼橋

応募して頂いた作品から、審査の結果以下の3作品を入賞とさせていただきます。次号でも引き続き募集を行いますので、皆様の応募をお待ちしております。

全体講評

今回は、例年になく作品のレベルが高く上位は接戦でした。特に金賞と銀賞は紙一重でした。ライトアップされた橋の美しさを再認識させてくれる作品の競演となりました。各々作者が撮影意図をしっかり持って撮影したよい例だと感じています。橋は、端と端を結び限りなく夢を与え続けてくれています。私達の暮らしに欠かせないのと地域のシンボルの景観にもなっています。大きい橋、小さな橋。どうぞ次年度もあなたの街の素敵な橋を紹介してください。ご応募お待ちしております。

小橋 健一(写真家/日本写真家協会会員)



金賞

黄昏の名港トリトン

- 撮影者
福田 尚人
- 撮影場所
愛知県海部郡飛島村
- 撮影データ
カメラ:Nikon D300 F8.0 15秒
レンズ:Nicon AF-S18-200mm/F3.5-F5.6

名港西大橋の黄昏を見事な作品に仕上げられています。作者はこのエリアに架かる3橋の愛称を名港トリトンと熟知しているようです。季節によって異なる色がライトアップされこの作品は5月末に撮影されているので情熱の赤。残照の空に雲が流れそのライトアップの赤色が反射して映り込み雲の切れ間に青空が存在感を示している。橋の方向性と遠近感と相まって自然条件も上手に取り入れて斜張橋が活き活きとした作品です。



銀賞

夜の勝どき橋

- 撮影者: 生田目 聡
- 撮影場所: 東京都中央区 勝どき橋
- 撮影データ: カメラ OLYMPUS E-520 F3.5 1.6秒 ISO-100

平成19年(2007)に国の重要文化財に指定された勝どき橋の夜景ですね。まだ夜空に残照の面影が見え隠れしているのがこの作品のポイントでもあります。左岸の水辺目線から捉えた緑色でライトアップされた勝どき橋の5月を清々しく感じ取る事ができます。端と端を全部写し込むのではなく右側のアーチを入れずフレーミングしてボリューム感と広がりイメージを感じさせる作品に仕上がっています。平成22年6月14日で70歳の古稀を迎える勝どき橋です。



銅賞

夏の永代橋

- 撮影者: 生田目 佳代子
- 撮影場所: 東京都江東区 永代橋
- 撮影データ: カメラ Canon PowerShot A590 IS F3.5 1/1250秒 ISO-80

下路バランストタイプアーチ橋の永代橋の重厚感を表現したベストな作品になりました。撮影日が8月中旬ですから旧盆あけでしょう。暑さというより初秋を感じさせる作品です。車の混雑が都内でも有数の永代橋。その橋上に一瞬の静寂がやって来た。逃さずカメラを向けた作者。撮影意図が確かでしたので自ずと結果がついて来ました。その光景の「永代橋」も勝どき橋と一緒に国の重要文化財に指定されています。

写真募集要領

(題材)

- 風景・人物等、自由な主題の写真で、「鉄の橋」が重要な構成要素の一部となっている作品を募集します。
- ※鋼橋に限らせて頂きます。

(応募資格)

- アマチュアの方に限ります。

(応募作品の規格)

- カラープリントでキャビネ版(2Lサイズ)のもの。
- デジタルカメラで撮影した写真はプリント出力したもの。
- 組写真、合成写真は不可。

(応募締め切り)

- 平成22年12月31日

(応募上の注意点)

- 応募作品は自作・未発表のものに限ります。
- 応募は一人1点までと致します。
- 応募作品は、①題名②撮影者(氏名・年齢・住所・電話番号)③撮影年月日④撮影場所⑤撮影データ⑥作品の内容説明を記入した応募票(書式任意)を、必ず添付してください。
- 投稿された写真の著作権は投稿者個人に属しますが、著作権は主催者に帰属するものとします。
- 応募作品は返却しません。

(作品掲載)

- 「虹橋」75号(平成23年5月発刊予定)に掲載させていただきます。

(審査)

- 審査員 小橋 健一(日本写真家協会会員)
- 審査員、事務局で審査の上、掲載写真(点数未定)を選定させていただきます。
- 入選者には、謝礼として日本橋梁建設協会刊「日本の橋」を贈呈させていただきます。

(事務局・送付先)

〒105-0003
東京都港区西新橋1丁目6番11号
(社)日本橋梁建設協会 「虹橋」編集係

